

氏名	押 栗 泰 代
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 3 2 号
学位授与年月日	平成22年3月25日
学位論文題目	起業する保健師たちの活動から新しい保健師像を考 察するー開業保健師の起業プロセスの分析からー

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	132	(ふりがな) 氏 名	おし ぐり やす よ 押 栗 泰 代
修士論文題目	起業する保健師たちの活動から新しい保健師像を考察する — 開業保健師の起業プロセスの分析から —		
【研究目的】 開業保健師の起業動機とその起業プロセスを明らかにする。それにより、公共支援から漏れる人たちが必要とする支援の方法や保健師の新しい働き方について考える。			
【研究方法】 法人化あるいは独立採算の運営において、日本国内で活動をしている開業保健師をWEBで検索し、16名の保健師が確認された。(うち1人は筆者を含む)16名の保健師に電話およびメールをし、13名と連絡が取れ、2名が連絡不可、2名が時間的不可、2名が準備中のため対象外とした。その結果、開業して活動する保健師9名を対象に現地に出向き、半構成的面接を行い、その内容を質的に分析した。			
【結 果】 10の大カテゴリー、22の中カテゴリー、61の小カテゴリーが抽出された。起業プロセスとして【利用者が欲しいと思うサービスの提供ができないことから起こるジレンマ】を組織で働きながら感じていた。その頃から【私を必要としてくれる人のニーズに対応】したいという想いと【自分の力が活かせる働き方】をしたいという想いを形に変えたのが起業であった。起業後は、【提供をするのは利用者のニーズに合わせたサービス】への取り組みであり【働き方は自分のスタイルを重視】するようになった。開業においては【攻めと守りのバランスを保持する技術】が必要となり、【事業に対するビジネスプランの設定】は事業計画において重要なポイントであった。継続する中で、【サービスを受ける人と提供する人と社会の間に生まれる相乗効果】が現れた。起業により、【新しいサービスの創発】が行われ、事業のすべてにおいて【自分で決定する力】という自己責任の自覚が求められるというプロセスが明らかになった。			
【考 察】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 今まで手を差し伸べることができなかった人を「何とかしたい」という想いと、自分の意思で仕事の決定ができる働き方をしたいという強い想いが保健師に起業を決意させた。能力を活かし、自分にしかできないサービスを開発し、提供する中で、そのサービスを利用した人たちの満足感が仕事への達成感や、やりがいにつながっていったと考えられる。 2. 自分で事業を立ちあげると、自らの判断で全てのことを自分で決めることができるが、その反面全てのことを自分で責任を負うことになる。そのために保健師たちは自らを高める努力をし、求められるサービスを追求し、成功させるための戦略をたてるなど、想いを形に変えることが決して容易ではなかったことがうかがえる。 3. 利用者がサービスを受けたい保健師を選択することができるような「かかりつけ保健師」が増えていくと思われる。今後、保健師の働き方として、行政・産業・学校・病院などの組織に働く保健師に、新たに開業保健師が加わることになる。 4. 新しい保健師の働き方を創発するためには、乗り越えていかななくてはいけない課題も多い。開業保健師のルール化や周知、開業も視野に入れた教育などを実現するためには職能団体を中心とした支援が必要となる。 			
【総 括】 看護協会においても保健師の起業提案がされているが、まだ具体的な方法や支援は示されていない。今後、開業保健師の成果が提示され、拡大することが社会の中で認知されれば、組織に勤務する保健師と協働し、「かかりつけ保健師」を中心とした新たな公衆衛生看護の仕組みを確立することが可能となると考える。			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。